

活動レポート

日本技術士会北海道本部 地方委員会 道央技術士委員会

文責：道央技術士委員会 長谷川 哲也

令和 5 年度 第 1 回 現地見学会 ウポポイ(民族共生象徴空間)

～体験プログラムを通じたわかりやすい情報伝達方法を探る～

1. はじめに

コロナ禍が収束し、ようやくウポポイの見学を実施することができました。道央技術士委員会では、施設の建設中に一度現地見学会を実施していた経緯もあり、今回の見学を楽しみに待っていた会員や、その話題性から既に個人で見学済みの会員など様々な参加者がいたようです。

3 年半の活動自粛で、会員の所属先変更や、引越、退官、退会があり、会員への周知は一苦労でしたが、やっぱり対面のコミュニケーションは良いと再認識しました。

道央の活動は、市民や地域に積極的に関わって行くという方針であり、ウポポイの体験プログラムを通じて、わかりやすい市民への情報伝達方法を探ることを見学会のテーマとしています。

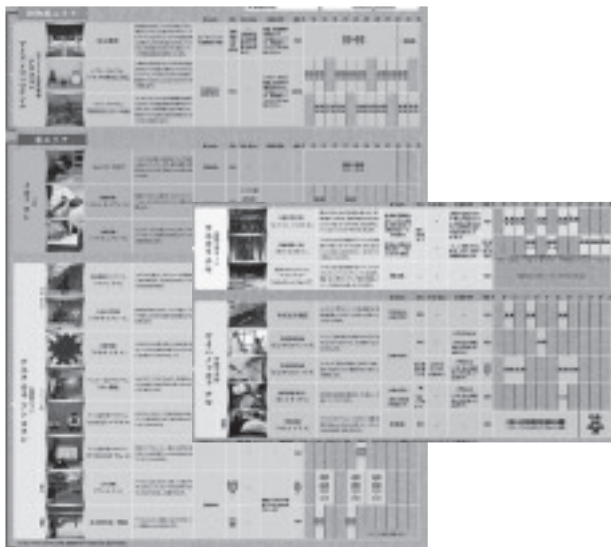


写真-1 ウポポイタイムテーブル(リーフレット)

なお、体験プログラムは予約が必要なものの、時間が重なったりするので、事前に把握しておくことが必要です。

2. 現地見学会

(1)開催概要

開催日時：令和 5 年 7 月 19 日(水) 13:00～16:00

場 所：白老町 ウポポイ(民族共生象徴空間)

参 加 者：9 名

見学内容：国立アイヌ民族博物館 展示鑑賞

工房、伝統的コタン

体験交流ホール 伝統芸能鑑賞

会員との意見交換

(2)国立アイヌ民族博物館

2 階へエスカレーターで上ると、正面にポロト湖のパノラマが広がります。基本展示室は、ことば・世界・くらし・歴史・しごと・交流の 6 つのテーマについてわかりやすく閲覧できます。

映像設備も充実しており、最新の情報伝達設備を理解しました。近年、AI や IoT の発展が目覚ましく、技術者としては常に最新情報を追いつける必要がありますが、同時にアナログ技術の復活も見られるなど、両者のバランスを取ることの重要性を再認識しました。



写真-2 国立アイヌ民族博物館(正面)



写真-3 国立アイヌ民族博物館からのパノラマ

(3) 工房、伝統的コタン

ものづくりやチセ(住居)を見学しました。私たちは弓矢体験「アッシノツ」を体験しました。エゾシカやヒグマを模した的に向かって弓矢を弾く単純なものであり、来場者には非常に人気があり、楽しく体験しました。若者に人気のマンガ、ゴールデンカムイの1人になった気分ですね。



写真-4 弓矢体験

チセ(住居)は、内部を見学できるものや体験兼プログラムを実施するものと、外観しか見られない伝統的な丸太とかやぶきの建物の2種類がありました。多数の人が出入りすることを念頭にしているので仕方ありませんが、近代建築で似たようなものをつくっている感じがしました。少し、残念でした。



写真-5 伝統的なチセ(住居)

(4) 体験交流ホール

見学会の最後に体験交流ホールで伝統芸能「シノツ」を鑑賞しました。ホールの音響設備も良かったものですが、見事な歌や踊り、伝統楽器のユーカラ、ムックリは音をきれいにひろって、参加者にも好評でした。

まだ、これからウポポイに行く予定の方は、鑑賞することをお勧めします。



写真-6 体験交流館ホール前(参加者)

(5) 意見交換

最後に意見交換をして閉会としました。主な意見は、ウポポイの展示が平取の博物館に似ている。伝統芸能鑑賞はここに来る価値がある。ポロト湖に集落(コタン)はなかったので、伝統的なチセも観光用に白老の社台から移設したもの。訪れた人が昔から生活していると誤解しそう。

4. もっと関心がある人に

私たちが活動している胆振や日高エリアにも、数々のアイヌ文化や歴史に触れられる場所があります。平取町の二風谷アイヌ文化博物館や二風谷工芸館が有名です。会員の地元情報では、苫小牧市美術博物館にも大変良い展示物が見られるそうです。穴場としては平日のみの開庁ですが、厚真町の軽舞遺跡調査整理事務所をご紹介します。

今夏は、札幌でも国宝の中空土偶が見られたようですが、ちょっと地方へ出かけて、アイヌ文化を堪能するのも良いと思います。

みなさま道央(胆振・日高)へもお越しください。